

「人権のひろば」に対するご意見、ご感想は戦略企画室 広報広聴グループ または、人権室までお寄せください。

身近な戦争遺跡から 戦争と平和について考えませんか

戦時中の大東市域

昭和12〜20年に繰り広げられた日中戦争およびアジア太平洋戦争では、国内外で310万人以上もの日本人の命が失われ、多くの外国人も犠牲となりました。当時、大東



松下飛行機(株)が製作した木製飛行機「明星」

市域からも多数の若者が戦地に出征し、730人が戦死したといわれています。また戦争末期には、三洋町・朋来付近に木製の練習用爆撃機を製作した松下飛行機(株)の工場が、寺川付近に航空機用の無線機などを製作した松下無線(株)の工場が置かれ、動員された多くの労働者や学生らが軍需産業に従事しました。終戦から70年以上が経過し、戦争体験者の声を直接聞くことが難しくなっている今、悲惨な戦争の記憶を未来に伝える手段として、戦争遺跡への関心が高まっています。戦争遺跡とは、戦争のために造られた施設や、被害を受けた建物などで現在もそのままの姿や遺構(建物などの痕跡)として残っているもので、市内にもいくつかの戦争遺跡が存在します。

大東市の戦争遺跡

野崎参道商店街を通り抜け、野崎観音の境内へ登っていく石段の脇には大正4年に建てられた四條村忠魂碑があります。この碑は、西南戦争以後の戦争で戦死した四條村(市域東部)出身者の慰霊碑として建てられたもので、両脇の殉国之英霊碑には日中戦争およびアジア太平洋戦争で戦死した27人の氏名が刻まれています。



四條村忠魂碑

また飯盛山の山頂には、昭和14年に建てられた国旗掲揚台の遺構が残されています。この掲揚台は、日中戦争の最中に国威発揚のため

に建てられたもので、基部に設けられた見張り室は、敵機来襲を観測し軍に通報するための防空監視哨としても使用されました。

大東市の取り組み

昭和58年に、あらゆる国の戦争と核兵器の廃絶を訴える「非核平和都市宣言」を宣言しています。また、毎年、被爆地広島に、平和への祈りが込められた千羽鶴を奉納したり、親と子で平和を考えるつどいを実施するなど、平和学習にも取り組んでいます。今回ご紹介した身近な戦争遺跡を通して、次の世代へ戦争の悲惨さや平和の尊さをつないでいきたいと思います。



飯盛山の国旗掲揚台跡